

1420 | 資料情報処理

2単位（通信授業1単位・面接授業1単位）

堀越洋一郎講師

授業の概要と目標

美術を広く人々の「鑑賞」に提供することを企画する者にとって、資料情報処理の理論を学ぶことは不可欠である。美術に関する各種データの研究及び表現の基礎として、美術資料及び情報の処理について研究する科目である。

美術・デザイン分野で扱う資料は文字情報のみならず、作品写真等の静止画像や映画、ビデオ等の動画像、音楽等の音声等多様であり、記録メディアも、印刷物から電子メディアまで多種類にわたるが、最近ではインターネット上での情報提供に見られるように、資料の電子化（デジタル化）が情報共有のために重要になってきている。

この科目では、多様な資料の特性、資料の収集から整理／提示手法、特にデータベース化などの電子化に関して学習する。通信授業では、文献資料の収集や管理の実際、書目、書誌、索引等の参考図書やWeb（レファレンスツール）に対する理解と事例紹介、コンピュータソフトの活用等をテーマとする。

面接授業では、図書やWebを通じた文献・画像資料の検索演習、個々人で小規模な書目類のデータベースを制作することを通して資料の収集、分析、再構築によって提示の実際を体験する。

課題の概要

○通信授業課題

各自が利用できる図書館に行き、各自が決めたテーマ（美術史、デザイン分野など）についての参考図書を調査し、それを基に、レポート作成する。

○面接授業課題

個々人で小規模な書目類のデータベースを、市販ソフトウェア（FileMaker Pro.）を使って制作する。

収録データについては、手持ちの資料等より各自が選んで収集する。

*課題については学習指導書『資料情報処理 平成29年度』を必ず参照すること。

授業計画

[通信授業]

美術を鑑賞に供するとはどういうことか。そのために必要なメディアや技術を理解するため、以下の項目を内容とする。

- ・美術・デザイン分野の書目、書誌、索引等参考図書Web（レファレンスツール）の概要。
- ・作品情報（作品写真、履歴、展覧会出品履歴等）、作家情報（氏名、生没年、参考文献、年譜等）の実例（記述項目、表記）を所蔵品目録、展覧会カタログ、カタログレゾネで検証するプロセス等。

[面接授業]

・参考図書やWeb上の美術・デザイン分野のデータベースの紹介と検索演習。

・個々人のテーマに沿った小規模なデータベースを制作する。

スクーリング前に各自が制作するデータベースのテーマについてメールで提出すること。提出方法はネットフォーラムを参照すること。

成績評価の方法

[通信授業] 課題に関するレポートの調査考察の深度、完成度（レイアウト等）。

[面接授業] 作成したデータベースの完成度（データ量の多さも含む）。

以上を総合的に評価する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 造形研究コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.049の特例を除く）。

[備 考] 芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：藤田節子『図書館活用術 新訂第3版』（日外アソシエーツ 2011年）

学習指導書：『資料情報処理 平成29年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）